

1年間の活動をふりかえって

黒河宏企（花山星空ネットワーク）

この1年の間に、NPO 法人設立式典、会報出版、こども自然体験教室、理数系教員研修会、月見の音楽会など、さまざまな新しい事業を皆様のご協力のおかげで実施することができました。この記念すべき法人1年目の歴史を簡単に書き留めて、途中から入会された方々にお知らせするとともに、法人2年目の活動を皆さんと考えるための参考資料にしたいと思います。

(1) 1月29日：特定非営利活動法人花山星空ネットワーク設立式典開催。

京大会館において、約50人の会員の出席を得て、設立総会を開催しました。定款や設立初年度及び翌年度の事業計画書と収支予算書の承認や、設立当初の役員と設立代表者の選任などを行いました。その後、尾池和夫京大総長、田原博明京都府教育長、門川大作京都市教育長ら6名の来賓の方々のご祝辞を得て、設立式典と祝賀会を行いました。式典の詳細は「あすどろん」創刊号に載っています。

(2) 2月23日（金）：京都府へ法人認可申請書類を提出。

法人認可申請に必要な書類を取り揃えて、府庁旧館内の京都府府民労働部府民労働総務課NPO協働推進室へ提出しました。

(3) 3月10日（土）：第1回指導員養成講座開催。

天体観望会や天体観測実習の際に、望遠鏡などを操作して観望・観測実習を解説・指導する指導員を養成するための講座を開催しました。昼間は太陽観測設備と歴史館について、夜は45cm屈折望遠鏡について行い、講師は黒河（全般）、石井（太陽）、吉永（45cm、歴史館）が務めました。受講者は9名（2名は太陽観測のみ）でした。

(4) 3月17日（土）：第2回指導員養成講座開催。

内容は第1回と同様で、講師は黒河（全般）、石井（太陽）、鴨部（太陽撮像）、磯田（45cm、歴史館）、岩崎（45cm）、受講者は4名（1名は太陽観測のみ）でした。上記2回の講座は試行的に行ったものでしたが、2回とも好評で、「今後も受講したい」という感想が多く聞かれました。また一方



株式会社 西村製作所

代表取締役 西村 有二

〒601-8115

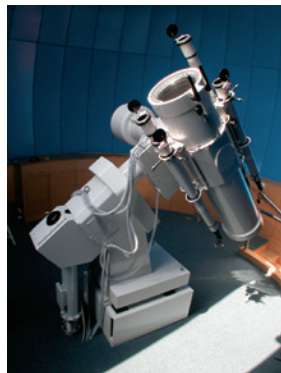
京都市南区上鳥羽尻切町 10 番地

TEL 075-691-9589

FAX 075-672-1338

<http://www.nishimura-opt.co.jp>

【事業内容】望遠鏡・天体観測機器製造



熱い情熱で夢を形にしています。

株式会社ヒューマンエンジニアリング アンド ロボティックス

代表取締役 岡村 勝

〒532-0011

大阪市淀川区西中島 3-8-15 新大阪松島ビル 601

TEL 06-6309-5265 / FAX 06-6309-5285

<http://www.herojp.co.jp/>

【事業紹介】

■ソフトウェア開発 及び コンサルティング

- ・情報統合：生産・受発注管理、ロジスティック業務管理
- ・制御通信：画像処理、製造・FA、マルチメディア
- ・アミューズメント：コンシューマーゲーム、携帯ゲーム



CHUO

天体観測機器・光学機器 設計/製作



豊かな想像力と確かな技術力

有限会社 **中央光学**

〒491-0827 愛知県一宮市三ツ井 8-5-1

TEL:0586-81-3517 FAX:0586-81-3518

<http://www.chuo-opt.com>

では、各望遠鏡についての操作マニュアルや全般にわたる研修のカリキュラムが必要ではないかという意見が出ました。問題は講師側に時間的な余裕がないという現実です。このため、多くの会員の皆さんに、一般向けの天体観望会や子ども自然体験教室などにボランティアとして積極的に参加していただき、その場で実践的な研修を積んで、解説員・指導員としての腕を磨いていただくように期待しています。

(5) 3月16日(金)：第1回役員会開催。

出席者：黒河、柴田、長谷川、作花、岡村、有本、西村、安達、蒔田、林、永田、下農、芦高、安江

(イ) 賛助会員獲得活動の進め方について、(ロ) 正会員と準会員の区別について、(ハ) 役員役割分担について相談しました。特に、「花山天文宇宙センター(仮称)」を実現する為の約10億円の寄付と、NPO活動を展開して行くために当面必要な運営資金(年間約300万円)獲得の戦略について相談しました。

(6) 5月17日(木)：第2回役員会開催。

出席者：柴田、西川、西村、豊原、安達、仲谷、黒河、林、岡村

「花山宇宙館建設計画」について、設立趣旨(目的)、特長、全体の構成、経費見積もり、発起人、宣伝パンフレットの構成とデザインについて、具体的な相談をしました。名称は「花山宇宙科学館」とし、「4次元宇宙体験プラネタリウム」と「宇宙観測学習館」二本柱とする案を作ることになりました。

(7) 5月19日(土)：第1回花山天体観望会「土星と金星」開催。

283名の応募者から抽選で100名が選ばれましたが、当日雲が多かったこともあって、実際の参加者は85名でした。最初は晴れていたのですが、途中から雲が多くなり結局土星は見れませんでした。小望遠鏡では月を楽しんでもらえました。当日のボランティアは次の20名でした。安達、磯田、黒河、柴田、岡、石井、坂部、林、高安、仲谷、人見、兵庫医大学生4名、岡本、岡和田、堀川、峰山、加藤。

(8) 6月20日：法務局に法人登記完了。

京都府に申請していた法人認可が4ヶ月掛ってやっと6月初旬に下りました。法務局に法人登記の手続きを行い6月20日に完了しました。これに

より「特定非営利活動法人花山星空ネットワーク」が正式に発足しました。

(9) 7月上旬：パンフレット印刷。

法人発足を記念してパンフレットを改訂して、新たに2000部を印刷しました。

(10) 7月14日：会報相談会開催

(出席者：作花，桜井，永田，黒河，下農，磯田，前田，岡村)。会報の出版方針や内容について相談しました。A5判で32ページ，季刊を目指すこと，印刷代を広告料（白黒1万円，カラー1万5千円）と会報販売（1冊300円）で賄って，独立採算制を基本とすることなどを決めました。

(11) 7月28日：第2回会報相談会

(出席者：黒河，作花，柴田，安達，堀川，渡邊)。会報の名称を決定するために集まりました。電子メール上で会員から寄せられた「そらねっと」，「きょうぼし」，「きょうてん」，「らくぼし」，「あすとろん」，「ほしぞらネット」，「ほしぞら通信」，「ほしぞら便り」，「はなてん」の中から，他に類似のものがなかなど，色々な観点から検討した結果，最後に「らくぼし」と「あすとろん」が残り，結局4対2の多数決で「あすとろん」に決まりました。

(12) 7月28日：第2回花山天体観望会「木星と月」開催。

203名の応募者から抽選で100名が選ばれましたが，雲が多かったこともあり，実際の参加者は87名でした。後半は晴間が多くなり，たいいてい人は月などを見ることができました。当日のボランティアは次の19名でした。堀川，岡和田，人見，人見（遥），林，石井，柴田，加藤，安達(悠)，永濱，富岡，岩崎，坂部，黒河，柘植，渡邊，和泉，大野，作花。

(13) 8月4日～6日：第1回こども飛驒天文台自然体験教室開催。

都会の子供達に，山のきれいな自然環境を体験させて，それらを守ることの大切さと自然科学の面白さを実感してもらいたい。この思いで企画したのですが，独立行政法人青少年教委振興機構の「子どもゆめ基金」の助成金を受けて実施することができました。募集時期が遅れたことなど募集方法の問題もあって，小学3年男子3名，小学5年女子2名，中学1年女子29名の合計7名（募集定員20名）の参加となりましたが，京都から随行した指導者は安達，磯田，柘植，黒河の4名で，飛驒では木村，石井他の天文台関係者と森林・高山植物の指導者3名が加わり，約10名の指導

者という贅沢な教室となりました。これについては磯田さんの詳しいレポートが既に「創刊号」に掲載されています。

(14) 8月7日：第1回理科教員指導力向上研修会

「天体望遠鏡を活用した理科・自然科学学習の再発見」開催。小・中・高校の片隅に眠っている小望遠鏡を活用して、自然現象の観察と学習の楽しさを再発見してもらうためにこの研修が企画されました。望遠鏡に初めて触れる先生方にも解るようにきめ細かく指導して、太陽黒点の観測方法などを実習していただきました。独立行政法人日本科学技術振興機構の「理数系教員指導力向上研修事業」の助成金を受けて行われたもので、6名の先生が参加されました。なお、この速報は「創刊号」に掲載され、この号にも鈴木さんの記事が載っています。

(15) 8月8日：こども夏休み天体観測教室開催。

天体望遠鏡を自分で使って、太陽黒点や木星の観測を体験させることによって理科と自然科学への興味を育むことを目的にして企画しました。子どもだけではなく大人も一緒に参加できるようにしましたが、21名（子ども14名大人7名）の参加がありました。これについては前田さんが楽しいレポートを「創刊号」に掲載してくれています。

(16) 8月22日：第2回理数教員指導力向上研修会

「天体望遠鏡を活用した理科・自然科学学習の再発見」開催。8月7日と同一内容で実施しました。4名の参加者がありました。

(17) 8月28日：会報「あすとろん」創刊号発行。

作花編集長をはじめ、表紙のデザインをしていただいた前田さんや、広告を集めていただいた岡村さんと橘堂さん、あおぞら印刷の田村さん他、いろいろな方々のご協力によって、創刊号が誕生しました。これから皆さんの手で広く親しまれる会報に育てていただきたいと思います。

(18) 8月28日：第3回花山天体観望会「皆既月食」

136名の応募者があり、今回は抽選をしませんでしたが、曇天のため実際の参加者は111名でした。あきらめていましたが、午後8時ごろより雲の切れ目から赤銅色に染まった皆既の月が顔を見せ始めると大きな歓声が上がりました。ボランティアは次の12名でした。 柘植，立岡，人見，石井，岩崎，柴田，坂部，堀川，黒河，滝澤，西村(昌)，中村(誠)。

(19) 9月29日：第4回花山天体観望会「名月と名曲」

月見の音楽会というテーマに初めて挑戦しました。渡邊さんの紹介で、京都大学の学生サークル「叡風会」の6名（琴2，尺八2，三味線2）の方々をお願いしました。参加申込者は86名でしたが、天候に恵まれず当日の参加者は65名でした。最初の演奏は予定通り屋上で行いましたが、8時ころから小雨がぱらつき始めたので、後の三回の演奏会は図書室に切り替えました。このような悪天候にもかかわらず、アンケートに「とても良い企画です。音楽とのコラボレーションもよかった（60代）」「曇り

空でとても残念でしたが、お話や音楽会は良かったです（40代）」「月のおはなしや音楽はサイコウによかったです（30代）」などのコメントがあり、ほっとしました。演奏者の一人に書いていただいた感想がこの号に載っています。ボランティアは次の15名でした。柴田，作花，豊原，安達，林（敏），坂部，高安，柘植，石井，久保田（香），堀川，峰山，佐々木（順），渋谷，黒河。

(20) 10月20日： 花山天文台一般公開

一般公開は天文台のすべての施設・設備・研究を1日かけて紹介する天文台の大きな行事ですので、NPOも受け付けや天体観望などのお手伝いをしました。好天に恵まれて盛会でした。

(21) 11月10日（土）： 第5回花山天体観望会「星雲と星団」

この時期で一番見やすいものとして「ペガサス座のM15」という球状星団を45cm屈折望遠鏡で見ていただく予定でしたが、天候に恵まれませんでした。それでも、講演や望遠鏡の説明、10月23～25日にかけて大增光したホームズ彗星の速報などを105名（応募者数141名）の参加者が楽しんでくれました。ボランティアは次の12名でした。石井，岡和田，黒河，坂部，高安，林，堀川，柘植，作花，渋谷，中村（寿），太田。

(22) 11月17日（土）： 第3回理数教員指導力向上研修会

当初の計画では第1回，第2回の参加者に再度来ていただいて、「研修の成果を学校現場で今後どのように生かすか」について自由討論をする予定だったのですが、ほとんどの方が「都合が悪くなった」ということで、3人の出席者のみに留まりました。学校の先生方が夏休み以外でこのような自由参加の時間を捻出することの難しさを感じました。しかし、3回の研修会の中で、来られた方々はどなたも小望遠鏡による太陽黒点のスケッチ観測に興味を持っていただきましたので、20年度も続けたいと思っています。

(23) 12月23(日) 第3回拡大役員会議開催。

(出席者：西川、柘植、黒河、西村、柴田、長谷川、蒔田、岡村)

19年度の活動報告と20年度の活動計画について話し合いました。会員総会と同じ日に第1回講演会を開催することを決めました。

(24) 2008年1月15日： 第4回拡大役員会開催。

(出席者：和泉、黒河、柴田、作花、松田、豊原、西村(昌)、下農)：

(イ) 第1回講演会について、(ロ) 19年度総会の開催について (ハ) 20年度活動計画案の策定について (ニ) 「あすとろん」第2号の発行について相談しました。

以上がこの1年間のあゆみのあらすじです。一昨年4月のNPO立ち上げ当初から、事務局は人見さんと二人でしたが、昨年7月から新たに柘植さんに来ていただきました。夏から秋にかけて、お二人には、安い給料の遅配にもかかわらず、昼食を取る暇もないくらい頑張っていただきましたので、なんとかここまで来れたと思います。ただ、人見さんは今年の11月ころより少し体調を崩されたということで、今年の1月から来られなくなり大変申し訳なく思っています。

現在の会員数は正会員142名(うち学生会員29名)、準会員21名、賛助会員15件(会社5件、個人10件)となっています。スタート時の正会員65人(一般52人学生13人)と較べると、だいぶ増えましたが、会費や寄付金以外に収入源のないNPOとしては、正常な運営からまだまだ程遠い状態であることには変わりはありません。これからも新しい正会員、賛助会員の獲得に皆さんの一層のご協力をお願いします。

